

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩心会 発行

現在会員数
 170名
 287名
 56名
 (513名)

61年5月号 (166号)
 5月発行 者 萃 岳
 根岸編集 者 岳
 中村愛 岳

全身で声を出す素晴らしさ

堀内支部D 徳本 徳子

春らしい日があり、又肌寒い日に変わったりの今日この頃ですが、八十八夜の新茶の候となりました。

私もちょっとした御縁で、中村先生を紹介していただき、詩吟のお仲間入りをさせていたゞく事が出来ました。勿論声など出ませんし、なにか恥ずかしい気も致しましたが、あるお稽古の先生いわく、恥ずかしいなんて、十七・八の娘の言うことだよ”と言われた事など思い出し、今では少々ですが声も出るようになりました。大きな声を出すなんて今迄にはなかった事：年をとって全身で声を出せるなんて本当に素晴らしい事だと思えます。これからも先生の御指導を受け、人様の前で吟じられたら：なんてそんな希望をもつてがんばりたいと思えます。

皆様の御健康をお祈りしてお仲間入りの御挨拶とさせていただきます。

くちずさむ 詩吟に朝の風薫る

五月晴れ 詩吟のあとの心さわやか

◎ 行事予定

(横須賀第二地区大会)

とき 61年6月8日(日)9時30分より

ところ 鎌倉中央公民館分館

(第11回碩心会温習会)

とき 61年6月15日(日)9時30分より

ところ 逗子図書館ホール

碩心会理事会ひらかる

とき 61年4月26日(土)7時より

ところ 桜山下会館

(議題)

◇60年度決算報告

◇60年度会計監査報告

(相違なしと認む)

◇役員改選の件

50周年大会をひかえ現役員留任してほしいとの会長の意向に対し承認さる

名誉会長 松井岳洋

会長 根岸岳萃

副会長 加藤岳相

” 小峯桜岳

相談役 三井岳龍

常任理事 加藤圭岳 (総務部長)

” 中村幸岳 (許証部長)

常任理事

竹石憲岳 (教務部長)

千葉香岳 (企画部長)

中村愛岳 (広報部長)

秋元梁岳 (会計部長)

千葉劔岳 (逗子地区長)

沼田汎岳 (葉山地区長)

森田暁岳 (大船地区長)

井沢潮岳 (会計監査)

鈴木萃岳 ()

広瀬翔岳 (総務副部長)

村田静岳 ()

杉山雪岳 (許証)

綾部秋岳 (企画)

矢嶋悦岳 (教務)

岩崎恵岳 (広報)

松野宝岳 (逗子副地区長)

沼田義岳 (葉山)

◇61年度予算(案)審議承認

承認

◇50周年記念吟道大会開催に係る準備委員会設置の件

(準備委員の構成)

常任理事以上 15名

各副部長 9名

各支部長 26名 (27支部)

その他 理事若干名

(準備委員名簿)

委員長 根岸岳萃

総括。加藤岳相 小峯桜岳 加藤圭岳

会場。竹石憲岳 森田暁岳 岩崎恵岳

矢嶋悦岳 磯部誠岳 村井清山

吉井道山

中村幸岳 千葉劔岳 松野宝岳

ラム企 綾部秋岳 南部政岳 大石春岳

集画・編 清水耀岳 栗原文風 上村象風

佐藤魁風 綱川哲風 加藤聖風

木村松風 一柳道風 松井正風

橋本果風

招待。中村愛岳 杉山雪岳 加藤朋風

石川豊風 一之瀬汀風 板橋雅風

鈴木英山 相多芳山

記念品。千葉香岳 村田静岳 森田嶺岳

弁当 渡辺秀岳 田上洲風 星野輝風

懇親会。沼田汎岳 鈴木萃岳 沼田義岳

鈴木孝岳 田辺伯風 渡辺誠風

鈴木蒼山 長谷川清山

会計。井沢潮岳 秋元梁岳 広瀬翔岳

吉原慎風 荒木笙風 岡野和風

加藤健山 青木梅山

(。印責任者・計57名)

◇報告並びに連絡事項 (逗子地区長)

傾心会逗子地区第一回吟道練成会なるも

のを3月9日行ったが今後もやりたい。

(葉山地区長)

60年度葉山地区温習会に協力を感謝。

(大船地区長)

皆さんの協力を願います。

(総務部長)

行事予定表出来次第配布。

総本部に登録する名簿、本年書きかえに付高段者の登録番号が変る。

61年4月現在会員数は正会員3、一般491少年11、高令者12、計517名。

第二地区大会プロ出来次第配布。

入・退会届はきめられた申込用紙で(そ

の中で提出とあるは書類提出の日)。

移籍届は新旧両方の承認を得ること。

(許証部長)

改正許証料は61年2月号月報に掲載され

ている。審査料許証料の納入は従来通り

名前、雅号、特に年令の間違ひが多いの

で正確な年令を記入のこと。

(教務部長)

最終月曜日に指導者講習を行っている。

月報3月号掲載のカセットテープ第二次

申込切は五月半ば頃。

(広報部長)

月報「傾心」は61年5月号で166号(13年

10ヶ月)となる。皆さんの寄稿をお願いします。

(企画部長)
 碩心会温習会プロ出来次第配布。
 (会計部長)

遠方よりの会費納入等の便宜上振替加入
 口座番号(横浜313657)
 加入者名(碩心会会計部)

振替用紙は会計部にあります
 払込みは納入へ切日一週間位前にお願ひ。
 払込手数料は会で負担。

(其他)

◇会員名簿の作成について：予算面、労働力等を考慮して、50周年大会が終つてから作成を検討したい。

◇50周年大会に向つて会員増加をPRしてほし。

碩心会教場一覧表

碩心会の形態を知つていただくために教場一覧表を掲載することにいたしました。

支部名(曜日・時間)	(場 所)	指導者
逗子 A	山ノ根消防団詰所	指 岸
(火) 1	山ノ根消防団詰所	指 岸
(火) 2	久木鴨嶺飲食店	柳
(火) 6	逗子会館	"
(火) 8	安田好山方	松井(正)
(火) 10	林・氏子会館	"
堀内 F		
(金) 2	齊藤和泉方	"
(日) 2	矢嶋悦岳方	矢嶋
(土) 2	"	"
(木) 2	白井寿風方	白井(寛)
(木) 4	千葉美風方	千葉
(土) 7	小形雄風方	小形
(土) 4	"	"
(火) 1	中村幸岳方	中村(寛)
(火) 10	"	"
(水) 7	堀内会館	小 峯
(水) 8	堀内会館	加藤(桂)
(水) 7	石渡桂岳方	石渡
(水) 10	堀内会館	根 岸
(木) 6	真 澄	"
(木) 10	逗・体小会議室	村 田
(木) 1	守永寿風方	千葉(香)
(金) 7	逗子商店街事務所	"
(金) 1	千葉劔風方	千葉(劔)
(火) 7	親交会館	三 井
(火) 2	清水耀風方	清 水
(火) 7	沼間会館	三 井
(金) 8	葉 月	"
(木) 7	桜山 B	廣 瀬
(木) 1	立沢御風方	三 井
(木) 8	逗子会館二階	立 沢
(木) 1	逗・体小会議室	三 井
堀内 G		
(火) 2	佐藤湧岳方	佐 藤
(火) 4	正岡紀山方	鈴 木
(土) 1	一色 A 会館	守 谷
(土) 2	一色 B 会館	加藤(桂)
(火) 7	黒崎李岳方	黒 崎
(火) 1	伊藤峰岳方	伊 藤
(火) 7	大楠教室	"
(土) 1	伊藤峰岳方	"
(土) 2	寺脇歌風方	寺 脇
(土) 7	唐木山	"
(日) 1	平 松	行 谷
(日) 3	下山口	"
(木) 5	吟 甫	沼 田
(木) 7	長 柄	沼 田
(木) 9	長 柄	沼 田
(木) 10	長 柄	沼 田
(木) 7	滝ノ坂	沼 田
(木) 9	諏 訪	井 沢
(木) 10	諏 訪	井 沢
(火) 7	風 早	井 沢
(火) 9	風 早	井 沢
(火) 10	風 早	井 沢
(火) 7	大船 A	杉 山
(火) 9	大船 A	杉 山
(火) 10	大船 A	杉 山
(月) 7	大船 B	岩 崎
(月) 9	大船 B	岩 崎
(月) 10	大船 B	岩 崎
(木) 2	森田曉岳方	森 田
(木) 4	森田曉岳方	森 田
(木) 5	横浜市役所	田 上
(木) 7	横浜市役所	田 上
(木) 10	茅ヶ崎青少年会館	鈴 木
(火) 7	松 和	不 村

練吟メモ

○前号で「春暁」の結句「花落知多少」の読み方五例を挙げました。そのうち次の二例は、訓読に大分違いがあります。

1. 花落つること 知る多少

2. 花落つること 多少なるを知らんや

ところで、漢詩の訓読は、1.のように簡潔がいいのか、2.のように長くても分りやすい方がいいのか、という問題について触れてみたい。もちろん、詩吟の場合は、教本のとおりに吟ずればよいのですから、訓読の良し悪しなどは問題にならないかも知れない。でも、何年か漢詩に接していると、自然にそういう疑問が生じて来ます。

○日本の漢詩が近江朝に始まっていることは、大友皇子の「宴に待す」の詩のあることで知られています。奈良時代に入っては日本最古の漢詩集「懐風藻」が編集されました。これによると、当時の漢詩は、主として宮廷や貴族の間に行われたに過ぎないことが分っております。そしてもう一つ、一体、当時の漢詩は、どのような読み方をしていたのか、ということですが、中国の人のように、漢字をそのまま音読したのか、それとも訓読のようなものが行われていた

のか、現在なお、学者の間でも定かでないようであります。

○平安時代に入ると、歴代の天皇が学問を奨励されたため、漢詩文は大いに盛んになりました。加えて、ひらがなもでき、カタカナも形を成して来たので、なるべく純粋の和文に訳して読もうとした結果、訓読みが多く、全体に調子の柔らかい読みとなりました。次に菅原道真の漢詩の一句を挙げてみますので、試みに読んで見て下さい。

二月三月日遅々

これを、現在の漢文調の読み方で読むと、

二月三月ひちち

でよろしい。が、平安朝時代の読み方は

きさらぎやよい日うらうら

であった。漢字を音で読まないで、訓または意訳で読んだようです。つまり、読めばそのまま理解できる、当時の大和言葉に直して読んだようです。

○「春暁」の「花落つること 多少なるを知らんや」は、この平安朝流の読みの名残りが、現在なお顔をのぞかせているようですね。(以下次号につづく)

俳句

風早 後藤 道風

点呼する ヨット溜りや海光る

雨の花 聖観音は素足にて

第一回準備委員会ひらかる

来る50周年大会の準備委員会が5月16日(金)桜山下会館に於て行われました。

自然と人生 (五月)

(暮春の野)

青葉茂りて、村々緑に埋れ、蘆鴨びて川狭ふなりぬ。

川の上流に立ちて、村の彼方に沈む日を見る。日は己に小坪の山にかゝりて、山は青黒き村の梢に絶々の紫を見せたり。

五月十日

(訂正)

4月号入会の137江原 一の通し番号を737に

738大野千恵子を大前千恵子に。

(支部長交替)

星山支部長池田延山を長谷川清山に

(移籍)

366赤池寿山 堀内支部Dより一色A支部へ

(入会)

746中村三代 逗子市池子一三三六

(山ノ根) (電)〇四六八七三三〇九三

(退会)

62石井庸風(上山口) 301多田秀山(一色B)

310信田千山(葉月) 481及川弘泉(堀内D)

528堀江景山(堀内D)